

[渡島東部圏]

<市町別の移動傾向>

自治体	総数	移動先							
		道南圏						道内	道外その他 (不明)
		渡島管内					檜山管内		
小計	自市町内	東部圏	西部圏	北部圏					
渡島東部	168,237 (100.0%)	158,693 (94.3%)	131,660 (78.3%)	26,101 (15.4%)	445 (0.3%)	487 (0.3%)	318 (0.2%)	1,491 (0.9%)	7,735 (4.6%)
函館市	122,560 (100.0%)	114,608 (93.5%)	106,233 (86.7%)	8,003 (6.5%)	224 (0.2%)	148 (0.1%)	172 (0.1%)	1,004 (0.8%)	6,776 (5.6%)
北斗市	23,803 (100.0%)	22,994 (96.5%)	12,328 (51.8%)	10,433 (43.7%)	181 (0.8%)	52 (0.2%)	76 (0.3%)	229 (1.0%)	504 (2.2%)
七飯町	13,397 (100.0%)	12,905 (96.2%)	6,138 (45.8%)	6,685 (49.8%)	38 (0.3%)	44 (0.3%)	45 (0.3%)	133 (1.0%)	314 (2.5%)
鹿部町	1,554 (100.0%)	1,491 (95.9%)	1,146 (73.7%)	336 (21.6%)	1 (0.1%)	8 (0.5%)	0 (0.0%)	34 (2.2%)	29 (1.9%)
森町	6,923 (100.0%)	6,695 (96.8%)	5,815 (84.0%)	644 (9.4%)	1 (0.0%)	235 (3.4%)	25 (0.4%)	91 (1.3%)	112 (1.5%)

※参考：2市（函館市・北斗市）及び1町（七飯町）を一体と見なした場合の数値

2市1町	159,760 (100.0%)	150,507 (94.1%)	148,765 (93.1%)	1,055 (0.6%)	443 (0.3%)	244 (0.2%)	293 (0.2%)	1,366 (0.9%)	7,594 (4.8%)
------	---------------------	--------------------	--------------------	-----------------	---------------	---------------	---------------	-----------------	-----------------

【出典】総務省「令和2年国勢調査」

- ・ 函館市は、道南地域の中核都市ということもあり、函館市内での就業・通学割合（86.7%）が渡島東部圏の平均（78.3%）より高い。
- ・ 北斗市及び七飯町は、自市町内の就業・通学割合（北斗市51.8%、七飯町45.8%）は渡島東部圏の平均（78.3%）より低く、自市町以外の渡島東部圏での就業・通学割合（北斗市43.7%、七飯町49.8%）が渡島東部圏の平均（15.4%）より高い。
- ・ 函館市、北斗市及び七飯町の2市1町を1つの自治体と見なすと、自市町内での就業・通学割合（93.1%）が、渡島東部圏の平均（78.3%）より著しく高く、これら2市1町が密接な生活圏を形成しているものと考えられる。
- ・ 鹿部町は、北斗市及び七飯町と同じ傾向が若干見られるものの、渡島東部圏の平均的な就業・通学状況にあると考えられる。
- ・ 森町は、渡島東部圏の平均的な動態と比較すると、渡島北部圏への就業・通学割合が高いことが特徴として挙げられる。

<通勤・通学に係る移動手段の傾向>

- ・ 各市町等で実施したアンケート調査結果などによる通勤・通学時の主な移動手段は、次のとおりである。（※調査概要はP84, 85を参照）

自治体	通勤・通学時の主な移動手段					
	路線バス	鉄道	自家用車	自転車	徒歩	その他
函館市 (N= 77)	19.48%	3.90%	57.14%	12.99%	23.38%	6.49%
北斗市 (N=131)	3.05%	0.76%	88.55%	6.11%	1.53%	0.76%
七飯町 (N=868)	11.64%	9.91%	92.17%	11.75%	12.21%	4.38%
鹿部町 (N=265)	7.92%	7.92%	84.15%	12.45%	16.60%	3.40%
森 町 (N=428)	1.87%	3.27%	78.04%	6.54%	7.71%	2.57%

※複数回答可能なため、合計が100%を越える場合がある。

[渡島西部圏]

<市町別の移動傾向>

自治体	総 数	移 動 先							
		道 南 圏						道内	道外 (不詳)
		渡 島 管 内					檜山 管内		
小計	自市町内	東部圏	西部圏	北部圏	管内				
渡島西部	7,738 (100.0%)	7,220 (93.4%)	6,107 (78.9%)	484 (6.3%)	585 (7.6%)	44 (0.6%)	49 (0.6%)	149 (1.9%)	320 (4.1%)
松前町	2,596 (100.0%)	2,430 (93.6%)	2,290 (88.2%)	39 (1.5%)	86 (3.3%)	15 (0.6%)	33 (1.3%)	49 (1.9%)	84 (3.2%)
福島町	1,522 (100.0%)	1,350 (88.8%)	1,165 (76.5%)	50 (3.4%)	115 (7.6%)	20 (1.3%)	8 (0.5%)	50 (3.3%)	114 (7.4%)
知内町	2,022 (100.0%)	1,924 (95.1%)	1,579 (78.1%)	134 (6.6%)	204 (10.1%)	7 (0.3%)	5 (0.2%)	31 (1.5%)	62 (3.2%)
木古内町	1,598 (100.0%)	1,516 (94.7%)	1,073 (67.1%)	261 (16.2%)	180 (11.3%)	2 (0.1%)	3 (0.2%)	19 (1.2%)	60 (3.9%)

【出典】総務省「令和2年国勢調査」

- ・ 松前町は、自町内での就業・通学割合（88.2%）が渡島西部圏の平均（78.9%）より高く、他の3町と比較して檜山管内への就業・通学割合が若干高い。
- ・ 福島町は、渡島西部圏の平均的な就業・通学状況にあると考えられる。
- ・ 知内町は、同圏内での移動割合が高い（10.1%）ほかは、ほぼ渡島西部圏の平均的な就業・通学状況と同じ傾向にある。
- ・ 木古内町は、自町内での就業・通学割合（67.1%）が渡島西部圏の平均（78.9%）より低く、渡島東部圏への就業・通学割合（16.2%）が高く（渡島西部圏の平均6.3%）なっており、就業・通学面での渡島東部圏との関係性が見られる。

<通勤・通学に係る移動手段の傾向>

- ・ 各市町等で実施したアンケート調査結果などによる通勤・通学時の主な移動手段は、次のとおりである。（※調査概要はP84, 85を参照）

自治体	通勤・通学時の主な移動手段					
	路線バス	鉄道	自家用車	自転車	徒歩	その他
松前町 (N=215)	3.72%	0.00%	78.60%	3.26%	8.37%	6.05%
福島町 (N= 24)	4.17%	0.00%	87.50%	0.00%	0.00%	8.33%
知内町 (N= 17)	0.00%	0.00%	82.35%	0.00%	23.53%	5.88%
木古内町 (N= 37)	2.70%	0.00%	81.08%	10.81%	13.51%	0.00%

※複数回答可能なため、合計が100%を越える場合がある。

[渡島北部圏]

<市町別の移動傾向>

自治体	総数	移 動 先							
		道 南 圏						道内	道外その他 (不詳)
		渡 島 管 内					檜山 管内		
小計	自市町内	東部圏	西部圏	北部圏	道内	道外その他 (不詳)			
渡島北部	10,365 (100.0%)	9,586 (92.5%)	9,190 (88.7%)	163 (1.6%)	3 (0.0%)	230 (2.2%)	181 (1.7%)	266 (2.6%)	332 (3.2%)
八雲町	7,818 (100.0%)	7,200 (92.1%)	6,909 (88.4%)	149 (1.9%)	3 (0.0%)	139 (1.8%)	174 (2.2%)	136 (1.7%)	308 (4.0%)
長万部町	2,547 (100.0%)	2,386 (93.7%)	2,281 (89.6%)	14 (0.5%)	0 (0.0%)	91 (3.6%)	7 (0.3%)	130 (5.1%)	24 (0.9%)

【出典】総務省「令和2年国勢調査」

- ・ 八雲町は、檜山管内への就業・通学割合が若干高い傾向が見られるが、概ね、渡島北部圏の平均的な就業・通学状況にあると考えられる。
- ・ 長万部町は、自町内を含め、渡島北部圏内での就業・通学割合が高い傾向にある。

<通勤・通学に係る移動手段の傾向>

- ・ 各市町等で実施したアンケート調査結果などによる通勤・通学時の主な移動手段は、次のとおりである。（※調査概要はP84, 85を参照）

自治体	通勤・通学時の主な移動手段					
	路線バス	鉄道	自家用車	自転車	徒歩	その他
八雲町 (N=581)	0.52%	2.07%	75.73%	8.61%	19.62%	4.99%
長万部町 (N=349)	0.29%	0.00%	89.97%	4.30%	7.16%	2.01%

※複数回答可能なため、合計が100%を越える場合がある。

② 通院に関する移動実態について

令和2年度「国保レセプトを用いた患者の受療動向」を活用し、渡島管内における住民の通院に係る広域的な移動の傾向について分析した。また、各市町等で実施したアンケート調査結果などによる通院に係る移動手段の傾向を把握した。（※調査概要はP84, 85を参照）

※医療圏 <二次医療圏の構成市町村>

地域の医療需要に対応して、医療資源の適切な配置と医療提供体制の体系化を図るための地域的な単位。「北海道医療計画」で定めている。第一次医療圏は初期医療等を提供する基本的な地域単位で市町村の行政区域。第二次医療圏(21圏域)は第一次医療圏を広域的に支援し比較的高度で専門性の高い医療サービスを提供する地域単位。

第二次医療圏	構成市町村
南渡島	函館市、北斗市、七飯町、鹿部町、森町、松前町、福島町、知内町、木古内町
北渡島檜山	八雲町、長万部町、せたな町、今金町
南檜山	江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町

<圏内ごとの移動傾向>

自治体	区分	患者数総計	流入元・流出先（上段は推定通院者数）				
			自市町	南渡島 (自市町以外)	北渡島檜山 (自市町以外)	南檜山	その他
渡島全域	流入	1,811,217 (100.00%)	1,398,550 (77.21%)	275,057 (15.19%)	45,388 (2.51%)	30,247 (1.67%)	61,975 (3.42%)
	流出	1,723,828 (100.00%)	1,398,573 (81.14%)	293,119 (17.00%)	7,182 (0.42%)	1,970 (0.11%)	22,984 (1.33%)
差（流入－流出）		87,389	▲23	▲18,062	38,206	28,277	38,991
渡島東部	流入	1,677,765 (100.00%)	1,306,657 (77.88%)	255,504 (15.23%)	29,676 (1.77%)	29,383 (1.77%)	56,545 (3.37%)
	流出	1,538,566 (100.00%)	218,509 (84.93%)	218,509 (14.20%)	680 (0.04%)	202 (0.01%)	12,496 (0.82%)
差（流入－流出）		139,199	1,088,148	36,995	28,996	29,181	43,958
渡島西部	流入	63,692 (100.00%)	42,082 (66.07%)	18,844 (29.59%)	13 (0.02%)	669 (1.05%)	2,084 (3.27%)
	流出	102,073 (100.00%)	42,083 (41.22%)	56,033 (54.90%)	10 (0.01%)	592 (0.58%)	3,355 (3.29%)
差（流入－流出）		▲38,381	▲1	▲37,189	3	77	▲1,271
渡島北部	流入	69,760 (100.00%)	49,811 (71.41%)	709 (1.02%)	15,699 (22.50%)	195 (0.28%)	3,346 (4.79%)
	流出	83,189 (100.00%)	49,811 (59.88%)	18,577 (22.33%)	6,492 (7.80%)	1,176 (1.41%)	7,133 (8.58%)
差（流入－流出）		▲13,429	0	▲17,868	9,207	▲981	▲3,787

【出典】北海道「国保レセプトを用いた患者の受療動向（令和2年度）」

※ 斜体数値は、通院者の総計及び各医療機関市町村（他の医療圏以外の市町村は医療圏ごとに合算）ごとの割合を用いて計算した通院者数の推定値であることに留意。

- ・ 渡島東部圏は、通院に関する移動において流入超過の状況にあり、特に南檜山医療圏からの流入先の大半（97.14%）は、渡島東部圏となっている。
- ・ 渡島西部圏は、通院に関する移動において流出超過の状況にある。通院先のほぼ全数（96.12%）が、自町内を含めた南渡島医療圏内となっている。
- ・ 渡島北部圏は、通院に関する移動において流出超過の状況にある。渡島東部圏や渡島西部圏と異なり、渡島北部圏においては、所属する医療圏（北渡島檜山医療圏）とは違う南渡島医療圏への通院が比較的多い状況が確認できる。

[渡島東部圏]

<市町別の移動傾向>

自治体	区分	患者数総計	流入元・流出先				
			自市町	南渡島 (自市町以外)	北渡島檜山 (自市町以外)	南檜山	その他
渡島東部	流入	1,677,765 (100.00%)	1,306,657 (77.88%)	255,504 (15.23%)	29,676 (1.77%)	29,383 (1.77%)	56,545 (3.37%)
	流出	1,538,566 (100.00%)	218,509 (84.93%)	218,509 (14.20%)	680 (0.04%)	202 (0.01%)	12,496 (0.82%)
	差	139,199	1,088,148	36,995	28,996	29,181	43,958
函館市	流入	1,412,569 (100.0%)	1,099,402 (77.83%)	213,720 (15.13%)	25,144 (1.78%)	26,133 (1.85%)	48,170 (3.41%)
	流出	1,124,042 (100.0%)	1,099,425 (97.81%)	15,060 (1.34%)	112 (0.01%)	112 (0.01%)	9,333 (0.83%)
	差	288,527	▲23	198,660	25,032	26,021	38,837
北斗市	流入	117,284 (100.0%)	94,367 (80.46%)	16,642 (14.19%)	575 (0.49%)	1,677 (1.43%)	4,023 (3.43%)
	流出	194,700 (100.0%)	94,371 (48.47%)	99,217 (50.96%)	58 (0.03%)	39 (0.02%)	1,015 (0.52%)
	差	▲77,416	▲4	▲82,575	517	1,638	3,008
七飯町	流入	89,430 (100.0%)	62,243 (69.60%)	21,624 (24.18%)	1,145 (1.28%)	1,511 (1.69%)	2,907 (3.25%)
	流出	124,455 (100.0%)	62,240 (50.01%)	60,945 (48.97%)	25 (0.02%)	12 (0.01%)	1,233 (0.99%)
	差	▲35,025	3	▲39,321	1,120	1,499	1,674
鹿部町	流入	8,686 (100.0%)	7,432 (85.56%)	988 (11.37%)	13 (0.15%)	47 (0.54%)	206 (2.38%)
	流出	21,314 (100.0%)	7,432 (34.87%)	13,620 (63.90%)	4 (0.02%)	32 (0.15%)	226 (1.06%)
	差	▲12,628	0	▲12,632	9	15	▲20
森町	流入	49,796 (100.0%)	43,213 (86.78%)	2,530 (5.08%)	2,799 (5.62%)	15 (0.03%)	1,239 (2.49%)
	流出	74,055 (100.0%)	43,211 (58.35%)	29,667 (40.06%)	481 (0.65%)	7 (0.01%)	689 (0.93%)
	差	▲24,259	2	▲27,137	2,318	8	550

【出典】北海道「国保レセプトを用いた患者の受療動向（令和2年度）」

※斜体数値は、通院者の総計及び各医療機関市町村（他の医療圏以外の市町村は医療圏ごとに合算）ごとの割合を用いて計算した通院者数の推定値であることに留意。

- ・ 函館市は、道南地域の中核都市であり、道南地域（南渡島、南檜山、北渡島檜山の各医療圏）から多くの通院者が流入している。
- ・ 函館市以外の市町住民の通院に関する移動先は、大半が自市町内と函館市となっている状況にある。
- ・ 森町については、北渡島檜山医療圏からの通院者数が比較的多いことが特徴として挙げられる。

<通院に係る移動手段の傾向>

- ・ 各市町等で実施したアンケート調査結果などによる通院時の主な移動手段は、次のとおりである。（※調査概要はP84, 85を参照）

自治体	通院時の主な移動手段					
	路線バス	鉄道	自家用車	自転車	徒歩	その他
函館市 (N=137)	29.20%	0.00%	55.47%	5.84%	23.36%	5.84%
北斗市 (N=131)	6.87%	0.76%	88.55%	6.11%	1.53%	0.76%
七飯町 (N=1,324)	7.33%	3.47%	99.17%	4.68%	11.56%	1.21%
鹿部町 (N=627)	6.54%	8.45%	96.17%	6.86%	6.06%	7.18%
森町 (N=850)	10.47%	5.88%	88.47%	3.53%	7.76%	9.53%

※複数回答可能なため、合計が100%を越える場合がある。

[渡島西部圏]

<市町別の移動傾向>

自治体	区分	患者数総計	流入元・流出先				
			自市町	南渡島 (自市町以外)	北渡島檜山 (自市町以外)	南檜山	その他
渡島西部	流入	63,692 (100.00%)	42,082 (66.07%)	18,844 (29.59%)	13 (0.02%)	669 (1.05%)	2,084 (3.27%)
	流出	102,073 (100.00%)	42,083 (41.22%)	56,033 (54.90%)	10 (0.01%)	592 (0.58%)	3,355 (3.29%)
	差	▲38,381	▲1	▲37,189	3	77	▲1,271
松前町	流入	22,842 (100.0%)	18,938 (82.91%)	2,884 (12.63%)	0 (0.00%)	345 (1.51%)	675 (2.95%)
	流出	34,168 (100.0%)	18,939 (55.43%)	14,356 (42.02%)	3 (0.01%)	513 (1.50%)	357 (1.05%)
	差	▲11,326	▲1	▲11,472	▲3	▲168	3158
福島町	流入	16,120 (100.0%)	10,125 (62.81%)	5,180 (32.13%)	3 (0.02%)	10 (0.06%)	802 (4.98%)
	流出	24,164 (100.0%)	10,125 (41.90%)	13,141 (54.38%)	5 (0.02%)	39 (0.16%)	854 (3.54%)
	差	▲8,044	0	▲7,961	▲2	▲29	▲52
知内町	流入	599 (100.0%)	541 (90.32%)	38 (6.34%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	20 (3.34%)
	流出	21,058 (100.0%)	541 (2.57%)	18,601 (88.33%)	2 (0.01%)	29 (0.14%)	1,885 (8.95%)
	差	▲20,459	0	▲18,563	▲2	▲29	▲1,865

自治体	区分	患者数総計	流入元・流出先				
			自市町	南渡島 (自市町以外)	北渡島檜山 (自市町以外)	南檜山	その他
木古内町	流入	24,131 (100.0%)	12,478 (51.71%)	10,742 (44.52%)	10 (0.04%)	314 (1.30%)	587 (2.44%)
	流出	22,683 (100.0%)	12,478 (55.01%)	9,935 (43.80%)	0 (0.00%)	17 (0.05%)	259 (1.14%)
	差	1,448	0	807	10	303	328

【出典】北海道「国保レセプトを用いた患者の受療動向（令和2年度）」

※斜体数値は、通院者の総計及び各医療機関市町村（他の医療圏以外の市町村は医療圏ごとに合算）ごとの割合を用いて計算した通院者数の推定値であることに留意。

- ・ 松前町からの通院は、自町内(55.43%)が最も多く、函館市(26.55%)、福島町(13.33%)の順に通院が多くなっている。
- ・ 福島町からの通院は、自町内(41.90%)が最も多く、函館市(31.93%)、松前町(11.62%)の順に通院が多くなっている。
- ・ 知内町については、自町内の通院は少なく(2.57%)、木古内町(42.96%)、函館市(34.16%)への通院が多い状況となっている。
- ・ 木古内町からの通院は、自町内(55.01%)が最も多く、次いで函館市(32.67%)への通院が多い状況となっている。

<通院に係る移動手段の傾向>

- ・ 各市町等で実施したアンケート調査結果などによる通院時の主な移動手段は、次のとおりである。（※調査概要はP84, 85を参照）

自治体	通院時の主な移動手段					
	路線バス	鉄道	自家用車	自転車	徒歩	その他
松前町 (N=422)	5.92%	0.00%	67.77%	1.90%	3.79%	20.62%
福島町 (N=253)	9.88%	0.00%	93.68%	1.58%	1.19%	5.93%
知内町 (N= 86)	19.77%	0.00%	65.12%	2.33%	1.16%	34.88%
木古内町 (N= 73)	5.48%	1.37%	71.23%	12.33%	13.70%	10.96%

[渡島北部圏]

<市町別の移動傾向>

自治体	区分	患者数総計	流入元・流出先				
			自市町	南渡島 (自市町以外)	北渡島檜山 (自市町以外)	南檜山	その他
渡島北部	流入	69,760 (100.00%)	49,811 (71.41%)	709 (1.02%)	15,699 (22.50%)	195 (0.28%)	3,346 (4.79%)
	流出	83,189 (100.00%)	49,811 (59.88%)	18,577 (22.33%)	6,492 (7.80%)	1,176 (1.41%)	7,133 (8.58%)
	差	▲13,429	0	▲17,868	9,207	▲981	▲3,787

自治体	区分	患者数総計	流入元・流出先				
			自市町	南渡島 (自市町以外)	北渡島檜山 (自市町以外)	南檜山	その他
八雲町	流入	60,586 (100.0%)	40,956 (67.60%)	703 (1.16%)	15,625 (25.79%)	194 (0.32%)	3,108 (5.13%)
	流出	59,693 (100.0%)	40,955 (68.61%)	16,159 (27.07%)	78 (0.13%)	1,176 (1.97%)	1,325 (2.22%)
	差	893	1	▲15,456	15,547	▲982	1,783
長万部町	流入	9,174 (100.0%)	8,855 (96.52%)	6 (0.07%)	74 (0.81%)	1 (0.01%)	238 (2.59%)
	流出	23,496 (100.0%)	8,856 (37.69%)	2,418 (10.29%)	6,414 (27.30%)	0 (0.00%)	5,808 (24.72%)
	差	▲14,322	▲1	▲2,412	▲6,340	1	▲5,570

【出典】北海道「国保レセプトを用いた患者の受療動向（令和2年度）」

※斜体数値は、通院者の総計及び各医療機関市町村（他の医療圏以外の市町村は医療圏ごとに合算）ごとの割合を用いて計算した通院者数の推定値であることに留意。

- ・ 八雲町からの通院は、自町内（68.61%）が最も多く、次いで南渡島医療圏（27.07%）が続いている。
- ・ 長万部町からの通院は、自町内（37.69%）に次いで、八雲町（27.21%）となっており、ほぼ北渡島檜山医療圏内での通院の割合が高い。

<通院に係る移動手段の傾向>

- ・ 各市町等で実施したアンケート調査結果などによる通院時の主な移動手段は、次のとおりである。（※調査概要はP84, 85を参照）

自治体	通院時の主な移動手段					
	路線バス	鉄道	自家用車	自転車	徒歩	その他
八雲町 (N=940)	4.68%	3.51%	81.70%	5.74%	11.38%	8.19%
長万部町 (N=178)	2.81%	3.93%	80.34%	2.25%	3.37%	9.55%

※複数回答可能なため、合計が100%を越える場合がある。

③ 地域公共交通に対する主な意向・意見等について

各市町等で実施したアンケート調査結果などによる地域住民の地域公共交通に対する主な意向・意見等は、次のとおりである。（※調査概要はP85を参照）

[渡島東部圏]

《函館市》

- ・ 時間通りに来ないことが多く、公共交通機関を利用しなくなった。
- ・ 本数を増やしてほしい。本数が少ないと車を選ばざるを得ない。
- ・ 地方に行くバスはもう少し良いバスを出してほしい。

《北斗市》

- ・夜遅くまで運行してほしい。
- ・市内外の交通の接続を良くしてほしい。
- ・利用しやすい運賃にしてほしい。

《七飯町》

- ・現在は免許があるので不便に感じないが、今のバスの時刻や本数では返納後が不安。
- ・特に函館行きのバスの本数が少なく、利用しづらい。

《鹿部町》

- ・森町方面及び函館市方面への交通の便が悪く、通学や通院に困っている。
- ・タクシーもなく、JRの昼の便もなくなってしまったため、バスの本数が増えてくれないと困る。

《森 町》

- ・元々便数が少ないのに、さらに減便され、バスの利用が難しくなっている。
- ・通院の際にバスを利用することが多いが、本数が少なかったり時間がうまく合わず、タクシーを利用している人が多い。

[渡島西部圏]

《松前町》

- ・木古内から高規格道路ができたのだから直通のバスがないものかと思っている。
- ・病院へ乗り換えなしで行けるようにしてほしい。
- ・白神、松浦間通行止め時でも対応できる新たな道路を造設してほしい。

《福島町》

- ・免許返納後は公共交通を利用したいが、不安を感じている。
- ・運行時間を延長してほしい。

《知内町》

- ・免許返納後、公共交通を利用したいため、便数は減少しないでほしい。
- ・免許返納者にはバス代割引を実施してほしい。

《木古内町》

- ・いさ鉄のホームに行くのにエレベーターがなく年寄りを連れて行けない。
- ・現在は運転できる状況だが、できなくなったら今の現状ではとても不安。
- ・希望する時間のバスがないという話をよく聞く。
- ・鉄道を無くしてバスの便を増やすべき。

[渡島北部圏]

《八雲町》

- ・利用率に応じた増減は必要不可欠だが、本数を減らしてでも、バスや鉄道は維持してもらいたい。
- ・時間や運賃、路線図など未だにアナログでわかりづらいので、IT化を進めて欲しい。

《長万部町》

- ・高齢者だけでなく、小さい子どもがいる世帯や親子向けの無料バスなどのサービスをお願いしたい。
- ・将来運転免許を返納した場合の、現在の公共交通の不便さに不安を感じている。